

香取市液状化対策検討委員会（第6回）議事要旨録

- ◆日 時 平成25年10月21日（水） 14:00～17:00
- ◆場 所 香取市役所502・503会議室（大会議室）
- ◆出席委員 （委 員） 石原 研而（委員長） 古関 潤一（副委員長）
中井 正一 齊藤 正芳（中村徹立委員代理） 林 清一
松下 克也 石井 良典 （敬称略）
（事務局） 香取市
パシフィックコンサルタンツ株式会社

◆議 題

議 事

- （1）第4回市民説明会での主なご意見
- （2）第5回委員会での指摘事項への対応報告
- （3）液状化の検証（補足）
- （4）再液状化の検討
- （5）液状化対策工法の検討

その他

- （6）次回日程について

◆配付資料

- 資料－1 委員名簿
- 資料－2 第5回液状化対策検討委員会議事要旨録（案）
- 資料－3 第4回市民説明会での主なご意見
- 資料－4 第5回委員会での指摘事項とその対応
- 資料－5 液状化の検証結果（補足）
- 資料－6 再液状化の検討結果
- 資料－7 液状化対策工法の検討結果
- 別冊資料－1 地質調査補足資料
- 別冊資料－2 「資料－5 液状化の検証結果（補足）」の詳細データ
- 別冊資料－3 「資料－6 再液状化の検討結果」の詳細データ
- 別冊資料－4 「資料－7 液状化対策工法の検討結果」の詳細データ

（1）第4回市民説明会での主なご意見の報告

事務局より、資料－3を用いて第4回市民説明会での主なご意見を報告した。

【主な報告】

- ・ 液状化対策検討委員会に住民の意見を反映できるように、委員会に住民を参加させてもらいたいという意見を報告した。

【主な意見・ご質問】

- ・ 検討委員会は専門的な技術検討の場として位置づけられている。また林、石井両委員は地元住民かつ被災者であるため、住民の代表としても委員会に在籍していると考えられる。よって、

検討委員会に住民を新たな委員として迎えることはしなくてもよいものと思われる。また、委員会は一般傍聴が可能である。（香取市、林委員）

【回答】了解した。（事務局）

（2）第5回委員会での指摘事項への対応報告

事務局より、資料－4、別冊資料－1を用いて第5回委員会の指摘事項とその対応を報告した。

【主な報告】

- ・ 第5回委員会の指摘事項に対する回答を報告した。

【主な意見・ご質問】

- ・ 府馬の実測沈下量整理図では、切土部と盛土部を表示し、両部の沈下量を示したほうが正確性が増すと思われる。（古関副委員長）

【回答】了解した。（事務局）

- ・ 地表面沈下量 Dcy 算定において、液状化強度試験結果の排水量から求めた値も信頼性が高いものと考えられる。（石原委員長）

【回答】了解した。（事務局）

- ・ 佐原市街地地区のモデル地区の液状化の検証では、実沈下量と計算値をほぼ同じにしてから、その後の対策検討に進むべきである。水郷大橋町では実沈下量に比べて計算値が小さいため、細粒分の多い地層も液状化すると考えた計算結果を示して欲しい。（石原委員長）

【回答】了解した。（事務局）

- ・ 別冊資料－1について、液状化強度試験各試料の最大間隙比、最小間隙比、試験における供試体圧密後の体積収縮量を追加で示して欲しい。（石原委員長）

【回答】了解した。（事務局）

（3）液状化の検証結果（補足）

事務局より、資料－5、別冊資料－2を用いて液状化の検証結果（補足）を報告した。

【主な報告】

- ・ 実沈下量と、計算による沈下量を比較し、報告した。

【主な意見・ご質問】

- ・ 簡易法と地震応答解析の結果を比べると、応答解析の結果では実測沈下量のほうが大きい傾向にある。対策検討の場面で応答解析の手法を用いるため、応答解析について以下の4項目を確認して欲しい。1. 府馬の入力地震動、2. 余震を考慮した沈下量、3. 細粒分の多い地層も液状化するとした場合の沈下量、4. 別の解析方法。（石原委員長、古関副委員長、中井委員）

【回答】了解した。（事務局）

- ・ 別冊資料－2について、地震応答解析の加速度分布図では地表付近で加速度が急に上昇するものと緩やかに上昇するものがあるが、それぞれについて計算に用いたモデルを示して欲しい。（石原委員長）

【回答】了解した。（事務局）

（4）再液状化の検討結果

事務局より、資料－6、別冊資料－3を用いて再液状化の検討について報告した。

【主な報告】

- ・ 考慮する地震動に対する液状化の程度について報告した。

【主な意見・ご質問】

- ・ 3～4 地点について、細粒分の多い地層も液状化するとした場合の比較計算結果を示して欲しい。
(石原委員長)

【回答】 了解した。(事務局)

(5) 液状化対策工法の検討結果

- ・ 事務局より、資料－7、別冊資料－4 を用いて液状化対策工法の検討結果について報告した。

【主な報告】

- ・ モデル地区における液状化対策工法の検討のための条件整理、入力値、検討結果について報告した。

【主な意見・ご質問】

- ・ 佐原市街地地区の対策方法については、下川岸と水郷大橋町では圧密沈下量に差があるが、土地の造成履歴が同じであることから、この地区では対策工法として格子状地中壁工法を採用したい。(香取市、石原委員長)

【回答】 了解した。(事務局)

- ・ 水郷大橋町の検討結果では、無対策時の沈下量が小さいため、計算条件を再度見直して検討結果を示して欲しい。(石原委員長)

【回答】 了解した。(事務局)

- ・ 小見川市街地地区の対策方法については、圧密沈下の懸念があるものの地下水位低下工法の適用可能性が残されている。これについて議論するため、宅地地盤の高低差(約 1m)を考慮したモデルの地下水位低下後の地盤の傾斜量を計算して欲しい。(古関副委員長、松下委員)

【回答】 了解した。(事務局)

その他

(6) 次回日程について

次回委員会は、2013 年 12 月 10 日(火) 10 時半～13 時 香取市役所 5 階大会議室で行う。

(補足)

次回委員会は、12 月 27 日(金) 14 時～17 時 佐原中央公民館第 3 研修室に変更になりました。